

諸君!

THE SHOKUN! 文藝春秋

朝鮮半島クライシス の危機管理 佐々淳行

戦略的アプローチを求めて
核兵器使用と国際法 伊藤憲一

「皇室外交」を 大原康男
「政治利用」するのは誰か

密告と肅清 モスクワの日本共産党 加藤哲郎
小林峻一

末期癌と逸見政孝さん 近藤 誠
山崎章郎

1994 8
AUGUST

密告と肅清——モスクワの日本共産党

加藤哲郎

一橋大学教授

小林峻一

ノンフィクション作家

遠い異国で彼らはなぜ殺されなければならなかったのか。地道な資料の発掘が真相を暴く

小林 私が加藤昭氏と共著の形で出した、『闇の男 野坂参三の百年』（文藝春秋刊・第二十五回大宅壮一ノンフィクション賞受賞）は、従来、日本共産主義運動史上の英雄とされてきた野坂参三の経歴の暗部を、新資料の発掘によって明らかにしたものです。野坂はモスクワ滞在中の一九三九年二月、コミンテルンのデIMITロフ書記

長にあてた手紙で、同志である伝説的革命家・山本懸蔵の過去の疑惑を密告し、そのため、スターリンによる肅清の嵐が吹き荒れる中で山本は銃殺される運命に陥りました。われわれは旧ソ連共産党文書保管室で問題の手紙を発見し、隠された歴史の一面

を垣間見ることができたわけです。

このことに加えて、この本では、肅清された日本人は他にも結構たくさんいたんだということ、つまり、今回の加藤哲郎さんの研究のとば口みたいな人名をいくつか示すことができたのではないかと思っ

ています。加藤 私は研究者の立場で『闇の男』を読んで、三つの大きな意義を感じました。第一にはやはり、野坂が自伝『風雪のあゆみ』の中で「刎頸の友」とまで呼んだ山本を、じつは保身のために、売って、いたという事実。それが証拠を含めて明らかに

二つ目は、これも小林さんご自身がいま

おっしゃった通り、最低二十数人の日本人が、一九三七年から三八年の間にスパイの疑いを受けて肅清されており、しかもその半分は銃殺されていたということが確認できた点も非常に大きい。これまでスターリン肅清の犠牲となった日本人と言えば、山本の他には、私や医師の川上武さんが調べてきた反ファシズムの革命家岡崎定洞、それから、恋の逃避行で当時の新聞タネとなった女優岡田嘉子と杉本良吉の二人、あるいは野坂参三夫人の野坂竜、山本懸蔵夫人の関マツが逮捕されたといった程度のこととはわかっていましたが、それ以外の実態



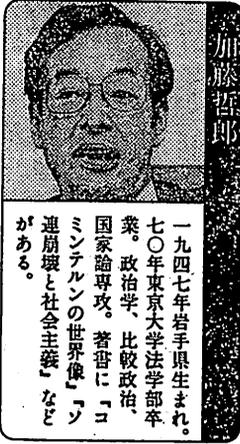
野坂参三

山本懸蔵

はほとんど知られていなかったわけです。三つ目に付け加えるとすれば、『闇の男』の巻末資料として、密告の書簡や、被疑者たちの供述書、面談記録、それに国崎定洞の名替回復決定書などの全文を翻訳掲載されたことが、研究者としては極めて重要でした。ここから野坂・山本問題に止まらない、新しい領域の問題を汲み取ることができると思えるからです。

私は長年、国崎定洞について研究してきましたんですが、とくにモスクワ時代の彼については不明の点が多かった。しかし、小林さん達の本から数々のヒントを得て、元東京大学医学部助教教授で、ドイツ留学中に、革命運動に身を投じていった国崎の、生涯最後の時期を新たに調べ直すきっかけが出来たわけです。

具体的に言うと、野坂と山本の対立の背



加藤哲郎

一九四七年岩手県生まれ。七〇年東京大学法学部卒業。政治学、比較政治、国家論専攻。著書に『コミンテルンの世界像』『ソ連崩壊と社会主義』などがある。

景に、ドイツ共産党員国崎定洞の名が浮かび上がってくる。関マツの供述書によれば、ベルリンにいた国崎は、モスクワの片山潜に告げ口をしたという。一九二八年の「三・一五事件」（日本共産党員やシンパの大量検挙）の際、山本懸蔵だけが検挙を免れ国外逃亡できたのは怪しい、山本は日本の官憲と内通しているのではないか、という可能性を仄めかしたというのです。これは大変だと思ひ、当時、コミンテルン幹部会員だった片山と、モスクワでの日本共産党の代表者であった野坂、山本、三者の關係を視野に入れ、国崎定洞の運命をとらえ直したのが、今度、私が出した『モスクワで粛清された日本人』（青木書店刊）という本なのです。

小林 『闇の男』と『モスクワで粛清された日本人』の違いを図式的に言うと、わ



小林峻

一九四一年三重県生まれ。早大文学部中退後、一貫して雑誌編集者、記者、ルポライターの仕事に従事。著書（共著）に『狭山事件』『日本共産党スパイM』などがある。

れわれの本では、野坂が加害者で山本は被害者、という構図になっていたのですが、加藤さんの本では、被害者だったはずの山本が、じつは国崎をはじめ、さらに何人かの人々を売り渡していた、ということが述べられている。さらに、日本プロレタリア運動の父、日本共産党の創始者のひとりとして崇め奉られてきた片山潜にまで、矛先が向けられ、彼らの間の反目が、モスクワにおける日本共産党の自壊の元凶であるということになっていきます。

山本の『系統的な』告発

加藤 そうですね。モスクワ日本共産党の組織が自壊していく発端は、二九年から三〇年にかけての片山と山本の疑心暗鬼にあると思います。山本は、自身の国外逃亡にまつわる疑惑のみならず、彼が推薦し、クートベ（東洋勤労者共産主義大学）に入学させた若者が二九年の秋に日本大使館に逃げ込むという事件が起き、その責任を問われることになる。一方、同じ時期に片山は娘の千代子を日本からモスクワに呼び寄せ、クートベに入学させようとしています。

コミンテルン執行委員会と山本は、片山の娘が非黨員だからという理由で、この入学に断固反対し、両者の対立は次第に先鋭化していきます。

小林 『闇の男』はそうした背後関係にまでは筆が及びませんでした。加藤さんのお仕事によって、フィールドが拡大され、トータルな形で問題が提起された感じがします。

加藤 ただ、私の国崎定洞研究はもう二十年來のものになります。『闇の男』が出るまで、国崎はあくまでドイツ共産黨員であるという先入観を持っていて、日本共産党との関わりというのはあまり重視してこなかったんです。彼がドイツ共産党内の反主流派と近かったり、スペイン戦争の義勇軍に志願したりという政治的背景の中で、粛清されたのだからと、フリーダ夫人の証言から推測していた。ところが、小林さん、加藤さんから見せていただいた国崎定洞関係のファイルを見ると、出てくるのはほとんど日本人の名前ばかり。とくに重要なのは、コミンテルン組織部員コテリニコフの、山本懸蔵に対する尋問調書なのですが、富山大学藤井一行教授と一緒に解説

していくと、その中で山本は、国崎定洞のみならず、当時、ベルリンで反戦反ナチの活動をしていた日本人共産主義者たち、千田是也（演出家）、平野義太郎（法学者）、勝本清一郎（文芸評論家）などを反党的であるとして糾弾しているんです。にわかに信じがたい、衝撃的な内容でした。

ちょうどその資料を読んだ頃、『闇の男』の出版記念会があり、席上、小林さんは、粛清の犠牲となったひとり、日本共産黨員伊藤政之助について語られた。彼に関する資料にも、山本懸蔵による告発の証拠が含まれていた、という。それならば、やはり国崎定洞も山本に売られたのかと思ひ、さらに過去に遡って日本側の資料なども調べていくうちに、どうやら山本は、一九三〇年の片山潜の秘書勝野金政のラーゲリ（強制収容所）送り、根本辰の国外追放以来、かなり系統的に当時モスクワにいた日本人をコミンテルン指導部に告発していたということが分かってきました。私自身の研究の筋道としては、そうなります。

小林さんに、『闇の男』に続いて、伊藤政之助ファイルの分析をしていただいたのが、私にとっては非常に大きなヒントにな

った。

小林 あの会は昨年の十一月でした。僅か半年の間にもう、その後の研究を『モスクワで粛清された日本人』に纏めてしまわれた。一、二度お目にかかってタフでエネルギーッシュな方だとお見受けしましたが、しかしすごい集中心力ですね（笑）。

加藤 本業の政治理論や比較政治の仕事がおろそかになって、迷惑をかけた出版社もあります（笑）。もともと、私の原稿は『闇の男』の書評として書き始めたのですが、次々新しい事実が出てきて、その枠に収まりきらなくなってしまった。リヒャルト・ゾルゲやフィンランド生まれの女性諜報員アイノ・グーシネン、岡田嘉子にまでテーマが広がって、自分でもちょっと收拾がつかなくなってきました。

日本共産党七十年史の空白

小林 じつは国崎定洞に関しては、そこまで見えていたわけではないんですが、彼を調べていけば、山本像も一旦ひっくり返さなければならなくなる、とは感じていました。しかしそうなると思われる手には

負えないぞという予感もあって、国崎研究の先達である加藤さんや川上武さんに、もうお任せだという気持ちでした。

加藤 国崎定洞とドイツ人のフリーダ夫人の間に生まれた娘、タツコ・レートリッヒさんは、いまもベルリンで健在です。外見は少しも日本人と変わらないが、日本語はぜんぜん話せない。モスクワに十歳までいて、そのあと母とともにナチス時代のドイツに強制送還されますが、それまでの経歴のためにひどい扱いを受ける。戦後も外見が日本人ということで差別される。こうした運命を辿った人が他にも少なからずいることを思うと、彼らを日本の親族に引き合わせたいというようなことを、どうしても考えてしまうのです。

小林 日本共産党はそういう活動はやっていないんですか。

加藤 全然やっていないようですね。一九三五年にソ連に入って、その後、二十年間ラゲリにいた元日本共産党員の寺島儀蔵氏に先日お会いして聞くと、一度「赤旗」のモスクワ特派員から電話があった以外は何の接触もないという。「闇の男」の中でインタビュアーに答えている、クートベ出身の永井二一氏は、八年間の強制労働のうち、いまもコミ自治共和国に住んでいますが、日本共産党は、「闇の男」の記述を覆すためにわざわざインタビュアーに向いているくせに、今度出た『日本共産党の七十年』の中に、その名前すら記していない。そういう態度に、私は疑問を持ちますね。

小林 山本懸蔵の未亡人、関マツ（一九

六八年没）の遺骨は……。

加藤 関マツはコミンテルンの秘密機関オムス（OMS）の工作員だったようですね。『闇の男』の中に、関マツの遺骨がいつでも日本共産党に引き渡せる状態にある、という一節があったのを気にしたのか、『七十年史』には、遺骨は取りに行つて日本共産党常任活動家の墓に入れたという記述が出ている。

小林 九三年秋に取りに行った、ということになっています。

加藤 似たような例では、杉本良吉と岡田嘉子の件。杉本は、一九七二年の『日本共産党の五十年』と宮本顕治氏の記者会見以来、日本共産党の指令で、コミンテルンとの連絡のためにモスクワに行つたとされてきた。それなのに、今度の『七十年史』

読みたい本 届けます。

ブックサービスは、お客様のご希望の本を出版社より取り寄せ、宅急便でお届けする本の流通サービスです。



- お届け日数 申し込み受付後4日から7日前後でお届けします。(本により日数がかかる場合があります。)
- 手数料 お申し込み1回につき、何冊でも380円です。(送料当社負担)
- お支払方法 料金と本の代金は、お届けの時に支払いただきます。カードもご利用になれます。
- 取扱い範囲 書籍一般(月刊誌、週刊誌、コミック、洋書、教科書を除く)、ビデオ・CD
- お申込方法 電話、ハガキ、FAXで下記ブックサービス部までお申し込みください。クロネコヤマトの宅急便営業所、ブックサービスの表示のある宅急便取扱店でもお受け致します。



クロネコヤマトの
ブックサービス株式会社
☎03(3817)0711
FAX. 03(3818)5969

〒113 東京都文京区本郷2-3-14

では、彼のモスクワ行き理由は、なぜか削られているんです。

小林 加藤さんは、杉本がソ連へ逃亡する際、日本共産党の正式代表であることを示すマンドート（信任状）をいつ受け取ったか、当時獄中の宮本顕治氏が、杉本の越境を事前に知っていたかどうかを問題にされていますね。

加藤 今回、杉本良吉と岡田嘉子に興味を持ったのは、一九五九年十月二十九日、ソ連最高裁判所が国崎定洞の名誉回復を行ったという事実と関連しています。じつは杉本も、ほぼ同時期に名誉回復を遂げている。つまり、二人はワンセットで法的に名誉を回復されたようなんです。

小林 というのは――。

加藤 その年の一月に、宮本顕治氏（当時・日本共産党書記長）がモスクワを訪れ、二月にソ連共産党中央委員会幹部と公式会談を行っている。その際に、杉本良吉に関する調査をソ連側に依頼したらしいんです。

小林 なぜ、その時期にあえて杉本のことを持ち出したのが問題になりますね。

加藤 いくつかの資料・証言を総合すると、どうやら会談に先立って、宮本氏は、

モスクワに住んでいた岡田嘉子に会う機会があったらしい。その際、岡田は消息不明になっていた杉本に関する調査をするよう、宮本氏に直訴したのではないか。折から、五九年は片山潜の生誕百年にあたり、日本共産党は片山の業績を記念するべく、各国の共産党に関係資料の提供を要請してもらった。こうした事情が重なり、五九年に、モスクワの文書館の奥深く眠っていた日本人関係の資料が目の目を見て、あいつぐ名誉回復に繋がったのではないかというのが、私の推論なのです。

ところで、モスクワに呼ばれた片山の二人の娘、安子、千代子姉妹と、スターリン粛清当時モスクワにいた日本人共産主義者たちの関係というのも、いろんな意味で複雑に絡みあっているような気がする。じつは、五九年に宮本氏と岡田嘉子が会ったと思われる席にも、安子は居合わせたらしいのです。

小林 『闇の男』の共著者・加藤昭氏が安子の夫にインタビューしています。話を聞いたところでは、夫妻がとくに党活動をやっていたという様子はなかったらしい。

加藤 初めから非黨員という立場で、

にもかかわらず黨員たちからいろいろとデマを流されたりして危機に陥ったりもするが、やはり生き残るという不思議な女性です。

小林 日本人黨員社会の周辺には、絶えずいるんです。

謎に満ちた日本人社会

加藤 細かい話になりますが、先程話に出た伊藤政之助が片山の娘と結婚したということが、小林さんの出版記念会の講演に出てきますね。

小林 資料に出てくるんですよ。

加藤 姉妹のどちらかわかりますか。

小林 それはわからないんです。三六年の四月のことです。山本懸蔵は黨員と非黨員の結婚はよくないという理由で、この結婚に反対する。

加藤 片山と山本の関係は良くないのですが、片山の娘と山本の関係も非常に悪い。安子の方とはもかくとして、私が気になるのは千代子の方なんです。一番最初に片山潜と山本懸蔵の陰悪な関係を作りだした一つの要因が千代子の入国で、彼女は山

本の妨害によってクートへの入学が果たせず、地方の工場へ所謂「学習」に出される。片山の病状が悪化したために呼び戻されて一時は同居し、四六年に亡くなるまでソ連に住んだ。

小林 戦後まもなく亡くなりますね。

加藤 いろいろ調べていくと、三〇年代の安子、千代子と他の日本人の関係というのは、非常に微妙なものを含んでいたのではないかとふうに思える。戦後長く生きて安子もあまりそのことを語っていないが。

小林 フジテレビ取材陣がKGB所蔵の資料にあたってその実態を明らかにした、アメリカ共産党籍でモスクワに亡命していた日本人共産主義者たち、所謂「アメリ組」の周辺にも、安子の名前は出てきます。

加藤 国崎が三七年八月四日に逮捕されたとき、「アメリ組」は、非党員の片山安子の所へ事情を訊ねに行く。そのことで、あとから山本の怒りを買って譴責処分になってしまうのです。それが全員の粛清、銃殺に繋がる。

小林 面白いですね。この時期、ソ連に亡命していた日本人の社会には、じつに不思議な人物が多く登場する。

加藤 ドイツ、ユーゴ、スイス……、当時モスクワに亡命していたいろいろな国の人々の粛清の記録がいま、どんどん出てきているので、それらとの比較を経たうえでないで、確定的なこととは言えない。しかし、日本人が粛清されていく過程には、やはりひとつの特徴があるように思える。少なくとも、スターリンが極悪非道でなんで

もかんでも捕まえた、というような形で問題を片づけることはできません。日本人社会の中で、ある種の小さなコミニティが出来、そこでの個人的な繋がりが災いして、誰かが捕まると、そのグループは芋蔓式にみんなやられてしまう。そして、この疑心暗鬼の繋がりの一番の中心には、野坂参三と山本懸蔵の反目があったというふうには私は見ています。

小林 そういふ日本人の精神構造的な問題がある一方で、三七年七月の『プラウダ』が日本人はすべて偽装スパイだという論説を掲げたりする。

加藤 あのロジックを見る限り、少なくとも当時ソ連にいた日本人は助かるわけがありません。だから、野坂がなぜ無傷で生き残ったかのほうが、むしろ問題になるわ

「これだけ」の中に「これ以上」がつまってる。



広告にはいろいろな媒体をさまざまなスペースがあり、それぞれ注目深く「こらへん」になると、よい広告には媒体やスペースの大小にかかわらず、奥かな情報がつまってるのに気づかされるはず。商品情報、くらしのヒント、企業のビジュアル、かな情報、かきつりつまった広帯、それをお届けしてゆくのが、わたしたちの大切な仕事です。

けです。

小林 和田春樹氏は、雑誌「思想」九四年三月号に寄せた論文の中で、山本懸蔵はあえて野坂を告発せず、救ったんだ、というのをかなり断定的に述べていますね。

加藤 和田氏があたった資料に私は目を通していないので、それについては何も言えません。しかし、これは小林さんにお訊きしたいのですが、「アメリ組」はNKVD（ソ連の秘密警察KGBの前身）の尋問に対して、野坂の命令でスパイ活動をしていたことを認めているわけですね。ですから、山本の告発にかかわりなく、野坂は逮捕できる状態にあった。

小林 そうなります。

加藤 それなら、野坂が逮捕されなかったのは、山本が告発しなかったからだ、という和田氏の推論には疑問が残る。山本は、本当に野坂についても、他の日本人についても完黙を通したのか。これは山本にづいてのソ連側のファイル全体が出てこない最終的にはわからない。例えば、国崎定洞に関しても、国崎供述といったものが、誰かのファイルから出てくる可能性はあるわけです。国崎も誰かの名前を「自

白」している蓋然性は高いと、私は思っている。犠牲者であれば直ちにその人は純粋だったとか、完黙だったということにはならない。そういう関係が、さっき言った芋蔓式の疑心暗鬼の繋がりの構造なんじゃないかと思っっています。

小林 なぜ、野坂だけが最後まで生き残ったのか。その仮説として、加藤さんは野坂がソ連共産党指導部によって「日本人残置課者」に選ばれたのではないかと興味深い考えを述べていますね。

加藤 野坂が生き残った理由はそれじゃないか、という形に、私の場合は一応まとめたんです。何も裏がなしに、幸運で生き残るということは、あの時代についてはありえない。それは、ディミトロフやトリアッティなど他の国籍のコミンテルン幹部に關してもいろいろ傍証が出てきています。

ベルリン、パリの光明

小林 『モスクワで粛清された日本人』では、モスクワの事情だけでなく、ベルリンの日本人反帝国主義グループについて、かなり詳しく触れられています。これまた

面白い存在で、インテリが多かったようですね。

加藤 そうです。当時の日本の文部省は、若手少壮の学者をほとんどドイツに留学させようという方針だった。留学生を含めると、当時百人位いたようです。そうしてベルリンに集まった秀才たちが作った社会科学研究会というのがきっかけとなり、特に活動的な人々が反帝グループに固まっていって流れていった。私はこの人々について二十年前くらい前から調べているんですが、蠅山政道（政治学者）、有沢広巳（経済学者）といった日本に帰ってくればそれほどラディカルでない人々も、向こうではなにしろ共産党も社会民主党も合法的なものですから、党の大会に出掛けたりデモに参加したりという、勇ましい活動をしていった。

小林 錚々たる名前がでてきますね。

加藤 本当にそうですね。私がベルリン・グループの指導者だった国崎定洞について調べ始めたのは、もともと東大紛争がきっかけでした。当時、東大生であることを自己否定しなければならぬような風潮がありました。そうした時期に確か平野

發本氏が東大にやってきて、東大にもか
つていふ人がいたんだ、というような
ことを演ずるんです。一九二〇年代にド
イツに出掛は、帰国すれば確実に手に入っ
た東大教授と、ウゴストを蹴って、戦争に
反対し、ナチスと戦った国崎定洞という人
がいた、と。すごいロマンティックな生き
方だなと感動し関心を持ったのが私の研
究の発端でした。

ベルリン・グループは日本共産党史の上
ではあまり重視されていませんが、たとえ
ば戦前の党が活動の拠り所として一番重ん
じていた「三三三三三三」などは、このグ
ループを介してモスクワから日本に届けら
れたんです。

小林 経済学者の河上肇が受け取りま
す。

加藤 それ以前は、山本懸蔵などが使っ
ていた上海経由のルートが、東京とモスク
ワを繋いでいた。しかし、三一年六月のヌ
ーラン事件を契機に、このルートが使えな
くなり、ベルリン・ルートが存在意義を増
す。三二年当時はベルリン・ルートが中心
ですね。

小林 ベルリン人脈に関して面白いと思

うのは、国崎に代表されるようなこのグル
ープの人々の度量の広さです。山本懸蔵の
持つ、あの党派的な狭量さに比べて、もう
ひとつ広い反ファシズムといったスタンス
で、世界を見ていたのではないか。これは
彼らに共通する特徴のようです。

加藤 当時日本人がヨーロッパやアメリ
カで展開していた反戦運動や反ナチ運動、
主に研究者、芸術家を中心となりますが、
これにも、私は一度じっくりと取り組んで
みたいと考えています。彼らのグループは
ベルリンのみならず、パリでも同じような
活動をしている。こちらのガスプ（在巴里
芸術科学友の会）には、その後の日本美術
界を動かしていく画家たちの名前も出てき
ます。

「転向者」たちが見たもの

小林 しかし、モスクワおよび東京で、
粛清や警察との闘いの渦中にあつた日本人
共産主義者のなかにも、次第に醒めた目で
ソ連の実態を見はじめた人々がいたはずで
すね。

加藤 とくにソ連でスパイの疑いをかけ

られたり、査問されたりして、粛清の実態
を見た人々にとって、労働者の天国とか、
社会主義の祖国とかいった幻想は急速に色
あせたはずですよ。

小林 自分たちの歪んだものの見方に日
本人の左翼運動家が気づき始めるのはいつ
ごろからなのでしょう。

加藤 これも難しい問題で……。一九三
四年にソ連から日本に帰ってきたクートベ
卒業などの活動家七人のうち四人が転向し
た、ということをも、警察が自慢気に報告し
ている文書がある。それを読むと、三〇年
代前半、社会主義に憧れていた日本人の中
にもすでにこれはおかしいぞ、と感じてい
た人々が確実にいたことがわかる。三〇年
に国外追放になった根本辰や、三四年に減
刑されてラーゲリから脱出し帰国する勝野
金政らは、ソビエトに対する認識という意
味では、当時、一番確実な情報を持ってい
た人々ですね。

小林 そういうリアリティを持った、一
番最初の日本人ということになります。

加藤 そういう人たちの感じていたもの
をきちんと受け止めず、左翼運動の陣営は
「転向者」、「ソ連から追放されてきた奴ら」

という一面的な見方で切り捨ててしまっ
た。

小林 戦後のかなり後の時代に至るま
で、ずっとそういう扱いを続けてきまし
た。それには「転向者」の側の問題点もあ
って、右か左か、ゼロか百かというよう
な、中間項をまったく欠いた態度が、彼ら
にどつての不幸な結末を招いたのではない
でしょうか。

加藤 野坂参三が言ったからすべて間違
いだとか、山本懸蔵が言ったからすべて正
しいとか、現在の宮本頼治氏の評価に関し
ても同様ですが、そういう硬直した発想か
らどういふふうにして逃れるか、これはコ
ミンテルンの伝統とせも言いますか、日本
の十七左翼が今日に至るまで抱えこんでい
る、大勢の問題点なのではないかと思ひます。

小林 政治活動をしていられる人だけでな
く、文学や学問にもそういうものが浸透し
ていたような気がしますね。

加藤 例えば、今回、宮本百合子氏の当
時の作品、日記などを読んで感じるのには、
その性質によつてはなくて、狭い政治的な
世界を見ているのではない

小林 戦争、学問、文学の世界で、政

治主義というか、党派性が評価を左右する
場面が随分あった。

加藤 そういう根本的な問題を、『閨の
男』や私の本に感じ取って貰えるなら、こ
の事は将来の日本にとつても有益なので
はないかと思ひます。

最終的な犠牲者は五十人以上？

加藤 スターリン粛清の研究について
は、最近、ロシア側の若い研究者や、地方
の研究者の間にも、注目すべき成果が現れ
ています。例えば、読者から情報が寄せら
れたのですが、サハリンの粛清について調
査したパシコフという研究者の『苦悩と記
憶』という本がある。その中には二千二百
四十五人の犠牲者の名簿が掲げられ、処刑
された日時までが示されている。その中
に、ふたつの日本人らしい名前、サイトウ
とクボタというのが出てきます。場所柄、
中国人名が百三十三、朝鮮人名が五十五出
てきますが、日本人の活動家が朝鮮名の偽
名を持つケースは、当時、多くありますか
ら、朝鮮名の中にも日本人が含まれている
可能性はあります。
また、モスクワにおいても、ソ連崩壊直

前まで、ゴルバチョフによるグラスノスチ
の流れのなかで、「ソ連共産党中央委員会
通報」という印刷物が出されていたのです
が、その様々な号で、この問題に触れてい
る。例えば、いま手元にある資料は、九〇
年十一月号の百六十一人の粛清犠牲者に関
するものですが、ナカカイチロウ、カタオ
カケンタロウなどという名前が出てくる。
『閨の男』でも、私の本でもまったく触れ
られていない名前です。

小林 初耳ですね、それは、『閨の男』
では、大体、二十四人の粛清犠牲者を明ら
かにした。銃殺された者が十二人、強制収
容所に送られた者が五人、国外追放二人、
逮捕されて行方不明になっている前島武
夫、伊藤政之助などは銃殺になっている可
能性が高いが、こうしたケースが四人。釈
放されたのは野坂竜ただひとりという内訳
です。

加藤 これに私の本であと八名ほど、肅
清された可能性の高い行方不明者の名前を
付け加えた。このほかにも、かなり粛清さ
れた可能性が高い関係者が、現在の私のリ
ストによれば十人ほどいます。
それから逮捕されたのかどうかもわから
ないが、とにかく当時、ソ連在住と推定さ

れ、その後行方不明の日本人が、さらに二、三十人はいそうです。これらの中には苗字だけしかわからない人、本籍地までつかめていない人など、様々な段階があります。全部洗い出す必要がありますね。

小林 そうすると、全部で五、六十人くらいになりますか。

加藤 私は、ソ連側資料と日本側警察資料から、いま一応七十五人の名前をリストアップして調べています。二つ以上の資料で引掛かっている名前だけで、四十数人いますから、最終的に犠牲者は五十人以上まで広がるのではないかと予想しています。しかし、先程少し触れた、朝鮮名を持つ日本人のケースのように、名簿や資料の調査だけでは判断がつきかねる場合はどうすればいいのか……。朝鮮労働党なり、中国共産党なりが、自分の国の肅清犠牲者のことをしっかりと調べてくれれば、日本人犠牲者が逆にあぶりだされる可能性もあるわけですが、これも現状では難しそうです。

小林 確かにあそこが空白になっている。国際共産主義運動の歴史研究には、ほかと大きな穴があいていますね。

ところで、相当数の日本人が殺されたことが明らかに以上、国家レベルで解

決の道を探ることはできないのでしょうか。

加藤 シベリアに抑留された元日本軍兵士・将校についてはすでに始まっています。が、犠牲者のリストを政府間で交換しあい、個々のケースにつき補償の問題を考えていくというのは、当然必要なことです。

また、肅清犠牲者には、法的な意味での名替回復がなされていない人がたくさんいるので、それもはっきりさせていかなければならない。

名替回復への長い道のり

小林 名替回復を求める手続きというのは、具体的にどうすればいいんですか。

加藤 九一年に国崎定洞の件でドイツに調査に行った際、一応、肉親の申請があれば当時のソ連政府がその内容をチェックし、それに従って、必要なら資料の公開、再調査を行うという仕組みは出来ているということがわかりました。もともと、そのときは、国崎の娘のタツコさんが、もうあの時代のことを思い出すのは忍びない、ということでも申請を行うことは出来なかったんですが。

小林 資料のあるなしを調べるだけでなく、罪状の中身まで調査するわけですか。

加藤 ええ。死因の変更、死亡年月日の変更も行います。

小林 それは、現政権が旧ソ連時代の責任を引き継ぐ形でやるんですか。

加藤 エリツインのロシア政府がどうするかはわかりませんが、ゴルバチョフ政権の段階では、死亡証明書を変更して出すというケースがありました。須藤政尾という人物は、三七年四月に最初に肅清の犠牲者となった日本人と見られ、つい最近、妹、弟が関西に在住していることが分かった。彼は従来、記録の上で一九四二年に病死として扱われてきましたが、モスクワに住む遺児ミノルの申請により、一九三七年十二月四日銃殺という正しい形に改められました。

小林 それでは、日本人犠牲者の場合も、日本人の遺族が申し立てれば……。

加藤 出来ると思いますし、それを政府が代行するということも可能な筈です。ただそのためにも、旧ソ連秘密資料その他によつて、地道に該当者を特定していく作業が必要です。気の遠くなるような作業ですが、だれかがやらなければなりませんね。